

実践的コミュニケーション能力の育成

— 対話活動の充実を通して —

外国語科（英語） 大兼敦子 星野百合子 川島聡史

日々加速的に進行する世界のグローバル化の中で、日本人の英語運用能力の向上が叫ばれている。そのような背景の下、平成15年3月に文部科学省から「英語が使える日本人」育成のための行動計画が発表され、学校教育における英語指導の目指すべき方向性が示された。

それによれば、中学校卒業段階における日本人の英語力として、「挨拶や応対、身近な暮らしに関わる話題などについて、平易なコミュニケーションができる」ことが目標として設定され、英語の授業における指導方針としては、以下のことが述べられている。

「英語が使える」ようになるためには、文法や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際にコミュニケーションを目的として英語を運用する能力が必要である。このため、英語の授業においては、文法訳読中心の指導や教員の一方的な授業ではなく、英語をコミュニケーションの手段として使用する活動を積み重ね、これを通して、語彙や文法などの習熟を図り、「聞く」「話す」「読む」「書く」のコミュニケーション能力の育成を図っていく指導の工夫が必要である。

本校外国語科（英語）では、これまで「実践的コミュニケーション能力の育成」をテーマとして継続的に研究を行ってきた。現在も育成に関する視点を変え、いくつかの手だてを講じながら、同じ主題で研究を進めている。

1 研究テーマ設定の趣旨

1 本校の共同研究から

本校では、昨年度から新たな共同研究のテーマとして、「ともに学ぶよさを生かした学習指導の在り方」—コミュニケーションする力の育成と活用—を掲げ、研究を開始した。このテーマを現行の中学校学習指導要領における外国語（英語）の目標と照らし合わせて考えたとき、授業中に行うコミュニケーション活動が浮かんでくる。外国語（英語）においては、積極的に異文化の他者と接触し自分の考えや意思を伝えること、つまり英語力をパフォーマンスとして表出するための基礎を養うことが求められているのである。そのためには、英語の文法的な知識等（認知面）及び積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（情意面）の両面を生徒に身に付けさせることが必要であろう。また、第二言語を通して異文化の他者とかわり合う場面においては、母語である日本語の場合以上に、相手の視点を理解し、相互理解が図れるように自ら認知・行動面の調節が行えることが肝要であると思われる。そこで、これまで授業において行ってきたコミュニケーション活動の質および生徒相互の「かわり合い」について見直しを図り、普段ともに学んでいる「教室内の他者」の存在をより深く意識させることが必要なのではないかと考えた。

2 これまでの研究から及び生徒の実態から

(1) 本校外国語科（英語）のこれまでの研究から

本校外国語科（英語）では、これまでの研究において、授業中の活動に自己表現の場面を数多く取り入れることによって、生徒の実践的コミュニケーション能力の育成に努めてきた。また、前回の研究においては、生徒に求める「外国語科（英語）の確かな学力」を「実践的コミュニケーション能力」ととらえ、その概念を4領域とのかかわり、資質・能力とのかかわり、基礎・基本とのかかわり、及び自ら学び自ら考える力とのかかわりから、次のように定義した。

実践的コミュニケーション能力

- ①「言語の使用場面や言語の働き」と結びついた「話す」表現能力
- ②「情報や相手の意向」「自分の考え」を伝え合う能力
- ③ 基礎・基本を自分なりに活用し、コミュニケーションを図ろうとする態度

これらの定義に基づいて行ってきた授業実践において、教師の観察、スピーキングテストの結果等から、①の生徒の「話す」能力および③の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度に向上が見られた。しかしながら、②の「相手の意向」をふまえての伝え合う能力という部分に関しては、授業中の生徒の発話内容の分析等から判断すると、相手の発話内容をただ表面的な情報として受け取っていることが多く、自ら相手に質問をするなどして、積極的に他者とのかかわりながら会話を発展させようとする姿勢は十分とは言えない。

(2) 生徒の実態から

新たな研究のテーマを探るにあたり、生徒の実態を把握するため、「コミュニケーション」という概念に焦点を当てた意識調査を行った。（質問紙は別掲）対象生徒は平成16年度全生徒455名、実施時期は2月下旬である。生徒の注目すべき回答とその考察は以下の通りである。

1 英語でコミュニケーションをするにあたって大切だと思うこと

この項目における注目すべき点は、少数ではあるが、「相手の話すことをしっかり聞く」ということを、「内容を伝えること」よりも上位に挙げた生徒がいることである。これらの生徒に共通して言えることは、英語圏でのホームステイ経験があったり、自ら進んで英語習得を目的としたテレビを視聴したり、ラジオを聴取していることである。学校での授業以外でも積極的に英語に触れることにより、英語を聞く力の重要性を認識しているだけでなく、英語によるコミュニケーションのモデルを自ずと感得しているのではないだろうか。

2 コミュニケーション能力を高めるために重要だと思う学習活動について

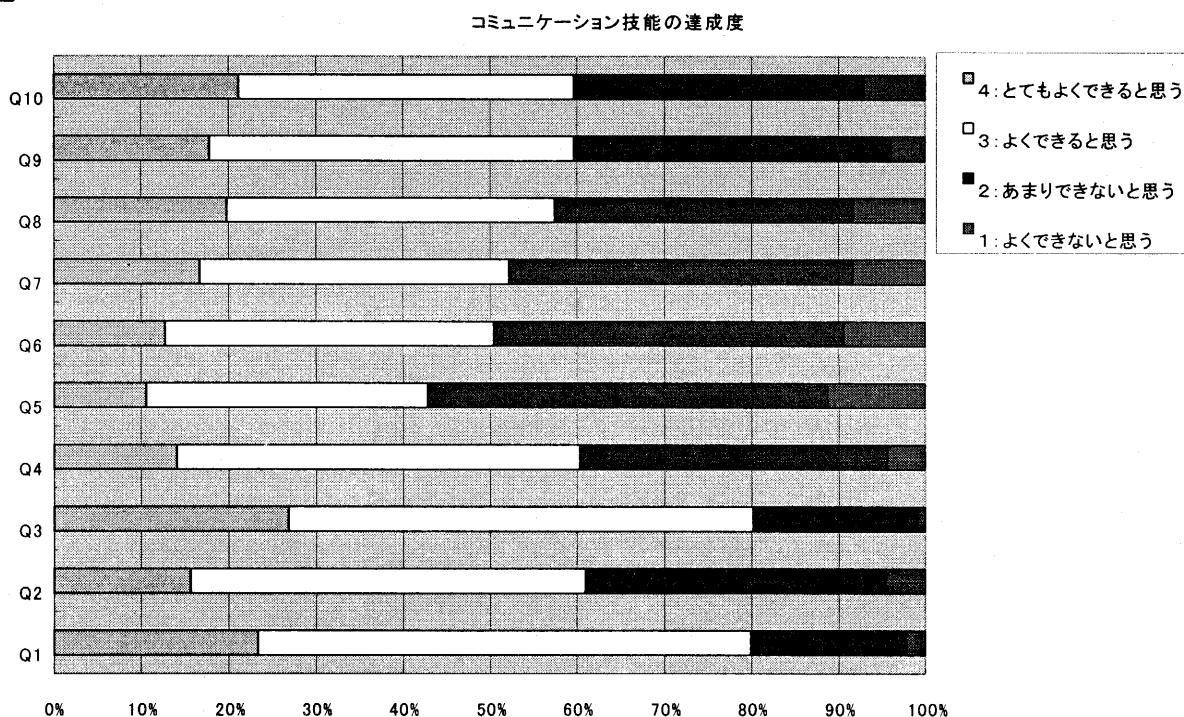
この項目においては、「Q7,Q8: ペアやグループでお互いの気持ちや考えを伝え合うこと」を最も重要だと考えている生徒が多いことが分かった。生徒にとって身近な「コミュニケーション」とは、やはり「話すこと」であり、その領域において自分自身のことをうまく伝えられるようになってこそ、実践的コミュニケーション能力がついたと考えるのであろう。一方、あまり重要でないと考えられている活動は、「Q9: ペアやグループで話し合ったことを発表すること」「Q11: 話し合ったことをワークシートにまとめること」であった。その理由を推察すると、話し合った内容に価値を見出せないのと共に、それを発表したり、まとめて記述したりすることによる「シェアリング」の意義を感じていない生徒が多いのではないだろうか。我々が、話し合った後の学習活動を重要視してこなかった結果だと思

われ、指導過程の見直しが必要である。

3 コミュニケーションに関する技能の達成度について

この項目については、肯定的な回答が80パーセントを超えたものが多くあった。しかし、「Q5：相手の意見や考えに対して自分から質問すること」や「Q6：相手の意見や考えに対して自分の意見や考えを述べること」といった項目に対しては、否定的な回答をしている生徒が半数以上に達している。これらの活動は語彙力及び即時的な反応を多分に要求するものであり、生徒たちが困難を感じるのも当然であろう。しかしながら、「相手の意見や考えに対して」という部分を我々指導する側がこれまで重視してこなかったことも、反省すべき材料として挙げられる。

図



以上の分析及び考察から、本校生徒の実態として、英語におけるコミュニケーション能力のうち「自分に関することを伝達する力」にはある程度の自信をもっているものの、「相手の意向を受容する力」や「相手の意見や考えに対して、適切な反応をする力」「双方向のコミュニケーションによって会話を発展させていこうとする力」は不十分であることが明らかになった。実際、我々の指導をふり返ってみても、生徒にいかに自分のことを表現させるかという自己表現力の育成に主眼があり、受け手を意識した指導にはあまり力点を置いてこなかったように思われる。ここで、言語を通したコミュニケーションのあり方を再考するとともに、授業におけるコミュニケーション活動の見直しおよび改善を図り、生徒に相手を意識した「対話力」を身に付けさせることが必要なのではないかと考え、前掲のテーマを設定するに至ったのである。

2 研究計画

(1) 第1年次

ア 英語でのコミュニケーションにおける「対話力」の定義づけ

- イ 「対話力」の身に付いた生徒像の検討
- ウ 対話活動を充実させるための手だての検討
- エ 授業実践

(2) 第2年次

- ア 英語でのコミュニケーションにおける「対話力」の定義の修正・改善
- イ 「対話力」の身に付いた生徒像の修正・改善
- ウ 授業改善のための手だての修正・改善
- エ 授業実践
- オ 研究の評価方法についての検討

(3) 第3年次

- ア 研究のまとめ及び評価
- イ 新研究の内容の検討

3 研究内容

1 英語でのコミュニケーションにおける「対話力」とは

英語でのコミュニケーションにおける「対話力」とは、どのようなものであろうか。本校外国語科（英語）では、まず吉田研作氏（上智大教授）と八島智子氏（関西大教授）の提言から、「対話力」の定義について考えた。

吉田研作氏は、Nunan(1991)が述べているコミュニケーションな英語の授業の5つの要素に関する考察のもと、「オーラル・コミュニケーション」と「会話」の違いを次のように述べている。

「会話」とは、少なくとも2人の対話者が互いに相手が言ったことを理解しながらやりとりすることである。そして、その際に必要なのは、相手が言ったことを理解するためのリスニング力と自分の考えを相手に伝えるためのスピーキング力だろう。しかし、「オーラル・コミュニケーション」の場合には、もうひとつ忘れてはならない大切な能力がある。それは、互いの考えを「調整し合い」、（たとえ100%ではなくても）共通の認識を得るための「対話能力」である。

また、八島智子氏は、コミュニケーションを考えるための三つのキーワードとして、「他者」「意味の共有」「相互作用」をあげている。

第一に、コミュニケーションは「他者に対して存在すること」であり、つまり他者を意識したときに生じる人間の認知・行動・情動の変化が深く関わるものである。第二に、コミュニケーションを「意味の共有」「共通の意味を構築すること」と考え、コミュニケーションを図っていく中で、意味の交渉や調整をしながら共通の意味を構築していくのである。第三の「相互作用」とは、相手がどのように反応するか予測しながら、相手の反応に合わせて、自分の反応を変えることである。

これらの提言およびこれまでの研究の反省から、本校外国語科（英語）では、中学校の英語の授業におけるコミュニケーションには、自分の考えを相手に伝えるための「自己表現力」と、相手の考えや意向を受容するための「対話力」が重要な要素であると考えた。また、本校外国語科（英語）の求める対話力を以下のように定義し、それを生徒に身に付けさせたいと考えた。

「対話力」

＝相手の気持ちや考えを正しく理解した上で、自分の気持ちや考えを伝え、両者が協力して会話を継続し発展させていく力

2 対話力のついた生徒の理想像

「対話力」の定義を受け、「対話力」のついた生徒の理想像を以下のように設定した。

ア 相手の気持ちや考えを受けて、自分から質問することができる。

イ 相手の気持ちや考えを受けて、自分の意見や考えを述べることができる。

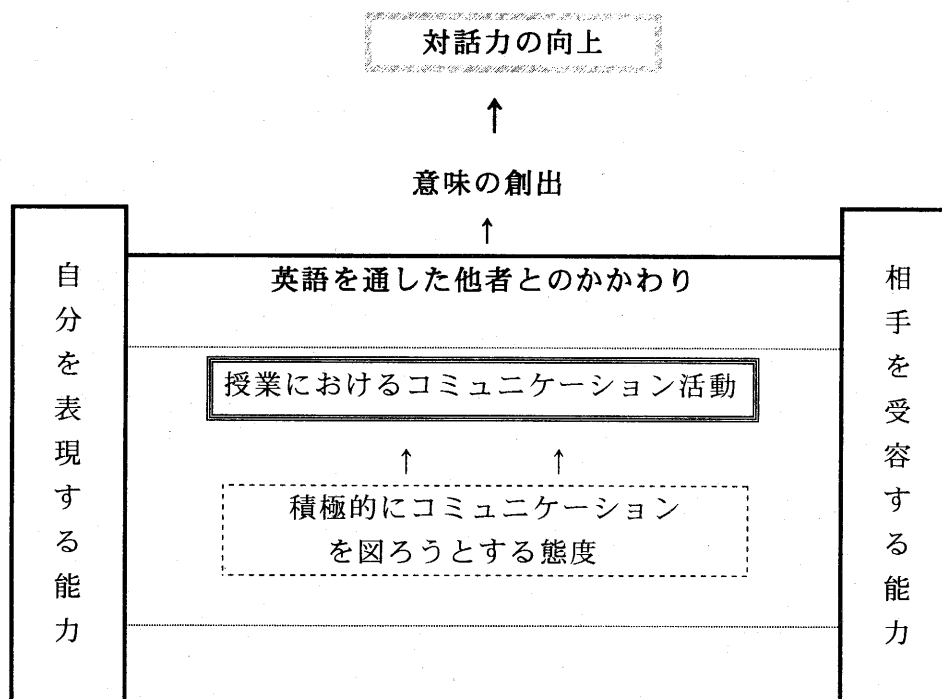
ウ 互いに気持ちや考えを伝え合うことにより、共通の認識を得ることができる。

エ 対話をするものの意義を感じ、継続し発展させることができる。

対話が行われる場面においては、必ず「話し手」と「聞き手」が存在する。この両者の間に対人的な意味と相互作用があって初めて対話が成立することは言うまでもない。これまでの本校外国語科（英語）の研究においては、前述の通り、言語を通したメッセージが意図した通り伝達されたかに主眼があり、対人関係的な側面や相互作用の動的な側面にはあまり踏み込んでいなかったように思われる。この「対人関係」および「相互作用」を授業におけるコミュニケーション活動に当てはめて考えると、まず生徒に「相手の考えや気持ち」を意識させることが重要であろう。

「相手の気持ちや考えを受けて」とは、相手の発話内容をしっかりと聞くとともに、表面的な情報だけではなく、話者の考えや気持ち、意向を受容することを意味し、その上で適切な質問をしたり、内容を確認めたりするなどして、理解しようとするものである。「共通の認識を得る」とは、対話する中から今まで知りえなかった相手の考えや気持ちを知り、それをお互いの合意形成に生かすことである。

ア～エは、話題や生徒の学習段階によって、内容の深まりや意義の感じ方に多少の差はあるとは思われるが、どのような対話においても必要とされるものではないだろうか。



3 対話力育成のための学年目標

「中学校学習指導要領（平成10年12月）外国語編」には、生徒の学習段階を考慮しての配慮事項が記述されている。それを参考に、「対話力」を育成するための学年目標を上記の理想像との関連から、次のように設定した。

	第1学年	第2学年	第3学年
	アイコンタクトを心がけ、相手の気持ちや考えを積極的に理解しようとしたり、自分の気持ちや考えを正しく伝えようとしたりする。		
ア	相手の発話に対し、あいづちをうったり、確認するためにその内容を繰り返したりする等、場面と内容に応じた適切な反応をすることができる。	相手の発話内容の意図を正しく理解し、場面と内容に応じた適切な反応を示すことができる。また、相手の発話内容を受けて、適切な質問をすることができる。	相手の発話内容の意図を正しく理解することができる。また、相手の発話内容を受けて、新たな情報を引き出すための複数の質問をすることができる。
イ	相手の気持ちや考えを理解した上で、簡単な表現を用いて、それに対する自分の気持ちや考えを伝えることができる。	相手の意向を理解し、それに対する自分なりの気持ちや考えを伝え、両者で協力して対話を発展させることができる。	相手の意向を理解し、それに対する自分の気持ちや考えを伝え、両者で協力して対話を発展させることができる。
ウ エ	お互いの気持ちや考えを伝え合う中から共通の認識を見出し、対話することの意義を感じることができる。		

対話力の身についた生徒

4 対話活動を充実させるための手だて

生徒に「対話力」を身に付けさせるためには、授業におけるコミュニケーション活動およびそれに至るまでの指導について再考し、対話活動を充実させるための手だてを検討することが必要であろう。本校外国語科（英語）では、今回の研究における対話活動を充実させるための手だてとして、以下の四つを考えた。

(1) 対話発展のためのストラテジーの指導

ア フィードバック表現の日常的な指導

相手の発話内容に関して反応を示しフィードバックするということは、相手が話す内容をしっかりと受け止めることであり、また聞き手自身の理解を深めるにもつながる。また、フィードバックされることで話し手は、聞き手の理解度を把握した上で安心して話すことができることは言うまでもない。中学校において指導すべきフィードバック表現には以下のようなものが考えられる。生徒の学習段階を考慮しながら、必要に応じて対話活動の中に取り入れ訓練をするとともに、日常の授業における教師との対話、生徒同士の対話においてもこれらの表現を用いられるよう心がけたい。

- ・ あいづちをうつ（I see. / Uh huh. / Oh, really? / Oh, do you? ），
- ・ 自分の考えや気持ちを伝える（Me too. / I think so too. / I agree, but ～. など）

- ・感想を述べる (Good. / That's great ! / How wonderful ! /)
- ・相手の発話を繰り返して確認する (Oh, you like Giants ! / Did you say ~ ?)
- ・相手の発話内容を解釈して返し、理解を深める (you mean ~ ? / ~, right ?)

イ 質問力の向上

対話を継続し発展させるためには、相手の発話内容を聞きその背景にある意向を理解するとともに、発話内容に不足している情報とは何かを考え、自分から相手に質問をする力が必要となってくる。

そのため、コミュニケーション活動の前段階において、多様な形式の質問の練習を生徒にさせること及び活動自体に質問する必然性のある場面を組み入れることによって、相手から情報を引き出したり、共通の認識を得るための質問する力を育成できるのではないかと考えた。

(2) 学習形態の工夫

相手の考えや意向などを受容した上で、コミュニケーションを継続させていく力を育成するためには、言語形式にこだわらず、生徒が既習事項を含めた内容を用いて英語を発話する活動が必要である。また、学習指導要領においては、指導計画の作成と内容の取り扱いの部分において、「ク.学習形態などを工夫し、ペアワーク、グループワークなどを適宜取り入れること」とあるように、活動の形態の工夫が必要である。本校外国語科（英語）においては、授業において日常的にペアワークを多く取り入れているが、日常生活における場面においては、三人以上で話をする場面も多い。そこで、グループワークを行わせる機会を増やし、二人以上の人数において、自分以外の生徒の考えや気持ちなどを聞く場面を設けていくことが、生徒の他者とのかかわりへの関心を生み出すことに有効に働くのではないかと考えた。その結果として、対話活動が充実するとともに、生徒の対話力も高まるのではないだろうか。

(3) インタラクション教材の開発

活動を「対話志向」にするための学習教材には多種多様なものが考えられるが、その中でも特に場面にあふさわしい言語交渉を生徒に要求するインタラクション教材が有効であると思われる。前述の通り、本校外国語科（英語）ではこれまで生徒の自己表現力を高めることに力を入れて取り組んできた。そのため、コミュニケーション活動で教師が示す対話例においては、相手からの質問に対する応答に加え、もう1文加えて自分のことをさらに詳しく伝える plus-one を重要視してきた。今研究における対話活動では、これまでの plus-one の指導とともに、相手の発話内容に対する適切な応答を生徒に考えさせるような教材の開発及びモデルの提示に努めていきたい。

(4) 他者の発話を意図的に聞く場面の設定

他者の発話内容に生徒が真剣に耳を傾けるような場面を設定することが、相手の気持ちや意向を考えさせることに有効に働くのではないかと考えた。これまでの指導においては、活動のまとめとして生徒に発表をさせるという活動は数多く行ってきたが、あくまでも発表者のプレゼンテーション的な意味合いが強く、聞く側はそのメリットを意識することなく、ただ漫然と聞いていることが多かったのではないだろうか。そのため、授業における

指導過程の中で、意図を持って他者の発表を聞かせる活動を取り入れていきたい。

4 授業実践

ここでは、今年度行ってきた授業実践の中から、(1) イ 質問力の向上、(2) 学習形態の工夫、(4) 他者の発話を意図的に聞く場面の設定に焦点を当てた1, 2学年の例を紹介する。

1 学年

実践例 I

ア 単元名 PROGRAM 3 先生に聞いてみよう (Sunshine English Course 1)

イ 本時の目標

(ア) 食べ物やスポーツ、音楽などの好みをたずねながら、より詳しく自分や相手のことについて情報交換をしようとする。

(イ) Do you ~?の疑問文の用法を理解し、相手に質問をすることができる。

ウ 展開

指導過程	生徒の活動	指導上の留意点
1 ウォームアップ	1 (1)始業時のあいさつをする。 (2)身近な事柄などについて友人と対話をする。	・ 英語を学習する雰囲気を作る。
2 前時の復習	2 (1)ピクチャーカードを見ながら教師の質問に答え、内容や単語を確認する。 (2)教師の後について、教科書を音読する。	・ 身近な事柄を話題にしなが ら生徒と interaction を 取るようにする。
3 Activity 1	3 (1)活動の仕方についての説明を聞く。 (2)自分の好きなことについてのスピーチを書く。 (3)基本文を使いながら、グループでお互いの好きなことについて対話する。 S1: I like music. S2: Do you like pop music? S1: Yes, I do.	・ 個々の状況を観察し全員 が対話例にならって活動で きるよう指導・支援する。 ・ グループ活動の最中は机 間指導を行い、単語や表現 に関する助言を適宜行う。
4 Activity 2	4 (1)活動の仕方についての説明を聞く。 (2)対話の仕方をペアで練習する。 (3)与えられた時間内にできるだけたくさんの友人と対話する。	

5 自己評価	(4)自分の発話内容をまとめてワークシートに書く。 5 本時の学習を振り返って自己評価を行う。	・ 本時の活動について自己評価させ、今後の自分の改善点について考えさせる。
--------	--	---------------------------------------

エ 授業改善のポイント

本時においては、質問力の向上と、学習形態の工夫を主なねらいとした。これらのねらいを具体的な活動として行わせたのが Activity1 である。

この活動においては、生徒相互のかかわり合いの中から相手の発話を受けた質問をさせることを主眼に置き、5人グループで、以下のような手順で進めさせた。

- ① 下記の4つのジャンルの中から自分が好きなものを選び、簡単な自己紹介のスピーチを書く。
- ② グループ内で1人がスピーチを発表し、他の生徒はその発表内容を受けた質問をする。

S1: I like movies.

S2: Do you like love story?

S1: Yes, I do.

Music	Sports	TV programs	Movies
pop music	soccer	dramas	action
rock music	baseball	news programs	comedy
classical music	tennis	variety shows	love story
jazz	basketball	quiz shows	cartoon
enka	table tennis	sports programs	horror

生徒の様子を観察してみると、大多数の生徒がグループ活動に意欲的に取り組み、また、他者の発表にも真剣な態度で耳を傾けていたようである。Do you~? を用いたコミュニケーション活動は、これまでも数多く行ってはいたが、1年生の6月ということを考慮すれば、ペアでの活動の場合、相手の発話内容を受けての質問をさせることは容易ではない。そのため、双方が関連性のない質問を単発的にするだけで、話に深まりが見られないことがよくあった。しかしながら、この活動においてはグループ内において、他者の発話内容を受けての質問をしなければならないため、わずかではあるが、生徒に「他者とのかわり」を意識させることができたのではないだろうか。

実践例Ⅱ

ア 単元名 PROGRAM 9 カードをもらってうれしいな (Sunshine English Course 1)

イ 本時の目標

- (7) 起床時間や就寝時間等をたずねながら、より詳しく自分や相手のことについて情報交換をしようとする。
- (1) What time ~? の疑問文の用法を理解し、相手に質問をすることができる。

ウ 展開 (概要)

①基本文型の導入⇒②ドリル活動⇒③グループ内でのインタビュー活動⇒

④インタビューのまとめ⇒⑤発表⇒⑥発表内容に関するQ & A

エ 授業改善のポイント

この授業においては、「他者の発表を意図を持って聞く場面の設定」を主眼に置いた。活動の流れとしては、上記の実践Ⅰと同様に、グループ内でのインタビューを行い、その内容をまとめて記述させ、代表が発表をする。他のグループは、その発表を聞いて、その内容に関する教師からの質問に答えるのである。

これまでの活動を振り返ると、発話したことをまとめて記述させたり、発表させることは日常的に行ってきた。しかしながら、他者の発表を聞くことも、受容という意味での「かかわり合い」であると捉えるならば、指導する側がその後のフィードバックまでを考えなければ、生徒はそれを聞く必要性を意識できないであろう。

その意味で、今回実践した活動は、生徒に「他者の発話内容を意図を持って聞く」という技能を身に付けさせるための一助となると考えている。しかしながら、現在においては、この活動のみしか行っておらず、生徒が「他者の発話内容を意図を持って聞くことができる場面および活動」にはどのようなものが考えられるのか、さらなる検討が必要である。

2 学年

相手の発話内容を受けて適切な質問をすることができるようにするため、授業の冒頭のウォームアップとして、あるトピックをもとにペア、及びそれ以上の人数で質問をしながら話題を広げていく活動を取り入れた。(以後「A-Q タイム」と呼ぶ。)

手順としては、まず、理想的な対話の在り方を意識付けさせるために、あるテレビ番組のインタビュー場面の様子を視聴させた。この番組の中では、インタビューにおけるコミュニケーションのこつとして①充実した質問の内容、仕方 ②相手との充実したことばのキャッチボール ③自分を必要以上にうまく見せようとし、を掲げている。また、質問していくことを通して、相手のことをもっと知ろうとする姿勢や、内容がふくらんでいくことの楽しさを味わうことができる場面がふんだんに使われている。日本人が諸外国の有名人に次々とインタビューしている場面を視聴した生徒たちは、感想として次のようなことを書いている。

2 What time did you get up yesterday?

(1) Talk about yesterday in a group.

(4人のグループで、それぞれのトピックについて話してみよう。)

対話のしかた

A : Let's talk about yesterday.

B, C, D: All right.

A : I [★] at [] yesterday.

How about you ~, B(C, D)?

B, C, D: I [★] at [] yesterday.

★ A → got up A → 6:30 B → 7:00 C → 7:00
 B → got home A → 5:30 B → 4:30 C → 5:00
 C → ate supper A → 6:45 B → 7:00 C → 6:00
 D → went to bed A → 11:30 B → 10:30 C → 11:30

(2) Write sentences.

① I talked about yesterday in my group.

② Yesterday I [] at [].

③ [] [] at [] yesterday.

④ [] [] at [] yesterday.

⑤ [] [] at [] yesterday.

① I talked about yesterday in my group.
 ② Yesterday I ate supper at six thirty.
 ③ Mr. Ozawa ate supper at six fiftyfive.
 ④ Mr. Kawamata ate supper at seven.
 ⑤ Ms. Vero ate supper at six.

- ・ 英語の楽しさや大切さ、そしてどのようにして話すのか（アイコンタクトやジェスチャーなど）が分かった。
- ・ 失敗を気にせず、がんばって話そうとする姿勢が大切だと分かった。
- ・ うまい英語を話すのも大切だが、自分なりの英語を話すのもいいのだと思うようになった。
- ・ 伝えようとする気持ちが大切だと分かった。
- ・ どうやって上手に伝えようかということではなく、どうやって自分の気持ちを伝えようかということが大切だと分かった。
- ・ 相手の話に興味を持ちながら質問をしていくことが大切だと思った。
- ・ 質問することにより、新しい情報がたくさん得られることが分かった。

以上のように、生徒たちは英語を通してコミュニケーションする楽しさや、質問することにより得られる内容の広がりなどを意識しながら対話していくことの大切さを感じ取ったようである。

次に、実際にグループになり、英語による対話活動を行わせようとしたが、日頃から母国語でさえ質問するということにあまり慣れていないせいか、なかなか質問が出てこなかったり、話題がふくらまなかったりという状況に陥った。そこでまずは日本語で対話活動をさせる機会を作り、あるトピックをもとに話し合わせた。

以上の手順を踏まえた上で、生徒たちにとって話しやすい話題をもとに英語で対話活動をさせる機会を増やしていった。以下に展開の概要を示す。

- (1) トピックの提示
- (2) 質問の作り方の練習（好きなスポーツや音楽などの身近な話題）
- (3) ペアでの対話練習

トピックカードの例

例：トピック－Sports

質問例：What sports do you like?

What sports do you like to watch?

Who is your favorite baseball player?

Can you run fast?

例：トピック－Music

質問例：What kind of music do you like?

Who is your favorite singer?

Can you play any musical instruments?

What's your favorite song?

まず全体でトピックを確認し、それに基づき教師に質問していく形式で質問の仕方を練習したり活動の流れをつかませたりする。生徒はペア（Reporter / Speaker）になり、質問したり答えたりする。その際、Reporter はメモをとる。活動後、Reporter にどんな内容の話が展開されたか簡単に発表させる。

ペアの活動に慣れてきたところで、今度は生徒たちを4人1組のグループに分け、1人1役の役割を与える。（Speaker / Reporter / Writer / Presenter－人数は活動内容に合わ

合わせて変えていく) 以下にワークシートと、実際の生徒のメモの例をあげる。

★方法

- ① 今日の役割を確認する。(Speaker 1人 / Reporter 1人 / Writer 1人 / Presenter 1人)
- ② 今日のトピックを確認する。
- ③ 制限時間内にできるだけたくさんの質問をする。
- ④ Presenter が発表する。I will talk about ~ . He / She ~

Today's speaker ()		My role ()	
Today's topic []			
Notes:			
Questions:			

生徒のワークシートから

Today's speaker (Mr.) My role (Reporter)

Today's topic (music, TV, movie)

Notes: ① baseball game. ② $\Xi''_9 = - \cdot \tilde{\tau}''_{1170}$

③ $1111711171 \cdot 12\tilde{\tau}'' = 1^0 = 2 = 2\tilde{\tau}''1 \cdot A - \Xi''_k - A - \cdot 1 = \tilde{\tau}''_1 - \Xi''_9 - 2$

Questions: ① What's your favorite program?

② Who is your favorite actor?

③ What kind of movie do you like?

Today's speaker(Mr.	My role (Writer)
Today's topic I music - TV, movie	
Notes: He likes pop music. His favorite singer is	
He likes a song called 'we will rock you' of Nirvana.	
Questions: ① What kind of music do you like?	
② Who is your favorite singer?	
③ What song of Nirvana do you like?	
④ Can you watch TV-movies?	

イ 本時の目標

(7) 対話活動に意欲的に取り組もうとしている。

(i) 動名詞を用いて、栃木県や東京で楽しめることを話題に対話することができる。

ウ 展開

指導過程	生徒の活動	指導上の留意点
1 ウォームアップ	1 (1)始業時のあいさつをする。 (2)身近な事柄などについて友人と対話をする。	・ 英語を学習する雰囲気を作る。
2 前時の復習	2 (1)ピクチャーカードを見ながら教師の質問に答え、内容や単語を確認する。 (2)自分の好きな活動について友人と対話をしたり、教師の質問に答えたりする。	・ 身近な事柄を話題にしながら生徒と interaction を取るようにする。
3 Activity 1	3 (1)活動の仕方についての説明を聞く。 (2)対話の仕方を練習する。 (3)基本文を使いながら、ペアで公園で楽しめることについて対話する。 S1:Excuse me. What can you enjoy in this park? S2:Well, you can enjoy fishing. S1:I see. And you can enjoy riding a bicycle.	・ 個々の状況を観察し全員が対話例にならって活動できるよう指導・支援する。
4 Activity 2	4 (1)活動の仕方についての説明を聞く。 (2)対話の仕方を練習する。 (3)基本文を使いながら、グループで海外からの友人に紹介することを考える。 (4)グループごとに結果をまとめて発表する。 (5)活動で考えた情報をまとめてワークシートに書く。 You can enjoy eating gyoza in Utsunomiya. It's delicious.	・ グループ活動の最中は机間指導を行い、単語や表現に関する助言を適宜行う。 ・ グループで協力し合い、互いに学び合う雰囲気を作り出したい。
5 自己評価	5 本時の学習を振り返って自己評価を行う。	・ 本時の活動について自己評価させ、今後の自分の改善点について考えさせる。

エ 授業改善のポイント

本時では質問力の向上と、学習形態の工夫を取り上げた。質問力の向上に関しては、ウォームアップをはじめ、各活動の中で対話を通して行う活動を取り入れ、質問をしながら話を進めていく活動を多く設けた。ウォームアップの段階では生徒たちにとって身近な話題（昨夜したこと、週末の予定、好きなことなど）を取り上げ、一方が質問をしていくという方法で質問力をつけていくことを試みた。その後の Activity については、生徒たちの活動がスムーズに行われるよう、まず、活動の説明の段階から教師側が質問の仕方や答え方の例を、生徒との interaction を通して示していった。活動の進め方は A-Q タイムの方式をとり、相手の話した内容をよく聞いた上であらたな質問をしたり、反応したりしながら情報を得ていけるようにした。黒板にはコミュニケーションを継続させる上で役に立つ表現を貼り、生徒たちがいつでも使いたい時に使えるように配慮した。

学習形態の工夫としては、従来行ってきたペアワークに加えて、3人以上のグループワークを多く取り入れた。ウォームアップと Activity 1 ではペアワークを取り入れ、コミュニケーションに必要な語彙や Activity 2 で役に立つ表現を練習させた。Activity 2 では A-Q タイムの形式を取り入れ、海外からの友人に東京や宇都宮の紹介をするという場面設定で、4人グループで活動をさせた。それぞれ自分の経験や知識を生かして様々な場所を紹介させる。グループで対話活動をさせることにより、自分以外の生徒の考えや気持ちなどを聞くことができ、言語活動における他者との関わりへの関心を生み出すことに有効に働くと考えられる。

オ 生徒の様子

ウォームアップの段階から「対話」を意識させる活動を組み入れることによって、生徒たちが相手の発言に興味を持って聞こうとする場面が多く見られた。対話を継続させることに役立つ表現を事前に練習させることにより、その表現を使って何とか対話を続けていこうとする様子も見られた。あるテーマをもとに活動をさせる際は、そのテーマについてどのような質問をすると話題が広がっていくのか、どのような反応を示すと相手が安心して対話を進めてくれるのかなどの例を事前に示すことで、以前は2ターンほどで対話が終わってしまった内容が3～5ターンくらいの広がりを見せるようになった。

A-Q タイムを通して学習形態を工夫することにより、生徒たちは他者と協力しながら話題を広げていたり、質問をしながら新しい情報を引き出したりする姿が多く見受けられた。自己評価の欄には、「固定されたペアだけではなく、いろいろな人と情報交換ができて楽しかった」「友人の知らなかった面が発見できて驚いた」等の感想を書く生徒がいた。しかし全ての生徒が満足 of いく対話活動を行っていたわけではない。生徒の中には対話をただ続けていくことに精一杯で、内容的な広がりや深まりを意識することなく終わってしまう者や、グループの人数が多くなるほど自分から発言したり質問したりすることに消極的になってしまう者もいた。学年目標にもあるように、相手の発言内容を正しく理解した上で反応を返したり、適切な質問ができるようになるためには、基礎的な練習を繰り返し行わせたり、対話をする上で興味を持てる話題や場面を設定していくなどいくつかの課題が残る。

5 研究の諸問題と今後の課題

今年度行ってきた授業実践の結果、今後の課題が山積しているのが正直なところである。全体として考えれば、中学校英語の授業における「豊かなかかわり合い」についてさらなる検討をすることが必要であろう。なぜならば、生徒が他者の存在を意識した「対話」を行うことができるかは、相互のかかわりの深度が、対話の深まりに大きく関わってくると考えるからである。また、今回講じている手だての有効性を検証するに当たっては、以下のような課題が考えられる。

1 データによる生徒の変容の把握

これまで講じてきた手立てによって、生徒の意識及び技能にどのような変容が見られたのかを、データとして把握しなければならない。今年度末に前掲のアンケート及びスピーキングテストを行う予定であるので、それらを分析し、来年度以降の改善点を洗い出していこうと考えている。

2 対話における情意的側面の分析

英語力をパフォーマンスとして表出させるためには、情意的な側面が大きなウェイトを占めることは言うまでもないであろう。外国語を通した対話において、他者との相互作用を通して意味の共有ができたという実感、そして自分が肯定され承認されたという実感を生徒に持たせるためには、単なる技能を身に付けさせることに終始してはいけなく考える。今後、他教科における実践も参考としながら、生徒が積極的に対話活動に取り組めるような人間関係の構築に関しても研究を深めていきたい。

3 評価計画の検討

「対話力」を評価するにあたって、生徒の学力をどのような視点から評価していったらよいのか、どの観点において評価していくべきなのかを検討していかなければならない。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「表現の能力」の両方の項目に関連してくるものであることは想像できるが、その延長線にあるものと安易にとらえてよいものかどうか、今の段階では定義が不十分である。研究をすすめながら、評価の方法、場面、および全体の計画について検討していきたいと考えている。

【引用・参考文献】

- | | |
|---|---------|
| 文部省（1998）『中学校学習指導要領』解説 外国語編 | 東京書籍 |
| 文部科学省（2003）『英語が使える日本人』育成のための行動計画の策定について | |
| 宇都宮大学教育学部附属中学校（1996）第41回公開研究会発表要項 | |
| （1998）第43回公開研究会発表要項 | |
| （2004）第49回公開研究会発表要項 | |
| 高橋正夫（2001）『実践的コミュニケーションの指導』 | 大修館書店 |
| 鈴木佑治編（1997）『コミュニケーションとしての英語教育論』 | アルク |
| 松本茂編著（1999）『生徒を変えるコミュニケーション活動』 | 教育出版 |
| 多田孝志（2003）『地球時代の言語表現』 | 東洋館出版社 |
| 八島智子（2004）『外国語コミュニケーションの情意と動機』 | 関西大学出版部 |

英語のコミュニケーションに関するアンケート

— () No.() 氏名 ()

1 英語でコミュニケーションをするにあたって、大切なことはどんなことかを自由にご書いてください。

・
・
・
・
・

2 あなたが授業中に行う英語でのコミュニケーションの能力を高めるために、以下の活動はどれくらい重要だと思うかを、次の3つに分類してみてください。

ア とても重要だと思う イ 重要だと思う ウ あまり重要だとは思わない

- | | |
|---|-----|
| ① 新出単語を練習すること。 | () |
| ② 教科書を何度も繰り返して音読すること。 | () |
| ③ 教科書の内容などについて、絵を見ながら先生の話す英語を聞いて理解すること。 | () |
| ④ 教科書の内容などについて、英語での質問に答えること。 | () |
| ⑤ 先生のあとについて、基本文を繰り返して言うこと。 | () |
| ⑥ ペアで基本文の練習を繰り返してすること。 | () |
| ⑦ ペアで自分なりの英文を使って、気持ちや考えを伝え合うこと。 | () |
| ⑧ グループでお互いの気持ちや考えを英語で伝え合うこと。 | () |
| ⑨ ペアやグループで話し合ったことを、発表すること。 | () |
| ⑩ 友人の発表を聞いて、他の人の考えを聞くこと。 | () |
| ⑪ 話し合ったことを書いて、ワークシートにまとめること。 | () |
| ⑫ 自分がまとめた英文を、先生や友人に見てもらうこと。 | () |

3 あなたが英語でのコミュニケーションをするにあたって、それぞれの項目を自分はどのくらい達成できていると思いますか。次の4つの段階で評価してみてください。

4 とてもよくできると思う	3 よくできると思う
2 あまりよくできないと思う	1 よくできないと思う

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ① 基本文を使って、自分の意見や考えを相手に伝えること。 | () |
| ② 基本文に加えて、自分の意見や考えを相手に伝えること。 | () |
| ③ 相手の意見や考えを聞いて、理解すること。 | () |
| ④ 相手の意見や考えに対して、適切に反応すること。 | () |
| ⑤ 相手の意見や考えに対して、自分から質問をすること。 | () |
| ⑥ 相手の意見や考えに対して、自分の意見や考えを述べること。 | () |
| ⑦ つなぎ言葉やジュスチャーなどを使って、対話を続けようとする事。 | () |
| ⑧ 分からない語や表現を、知っている他の語や表現で言い換えること。 | () |
| ⑨ 英文を読んで、それに対する自分の考えをもつこと。 | () |
| ⑩ 読む人のことを意識して、英文を書くこと。 | () |